

まつり



全作品と講評
www.columnland.net

ゆうやみを うがちてうかぶ 提灯に

染め上げられた さんじゃくのおび

——なつまつり

「ハレ」と「ケ」

皆さんは「ハレ」と「ケ」。この二つの言葉を「存じ」であろうか。

単調な日常。同じことの繰り返しのような毎日を「ケ」。

変化のある非日常。普段とは違う稀に起こる非日常的な機会を「ハレ」。

日常と非日常の比較・対照を表す言葉として「ハレ」と「ケ」の二語は使われる。現代において、この言葉はあまり聞かなくなってしまうたが、特別な日や機会などを「晴れ舞台」というような感じで耳にすることもまだあるだろう。

昔、特に江戸時代にはほとんど「ケ」しか存在していなかった。農民たちには特に楽しみもなく、ただ農業にいそしみ、年を重ねていくだけの生活をそれこそ何十年と繰り返ししている。そんな生活に潤いを持たせるため、人工的に作られた「ハレ」、それが祭である。「祭まであと何日」。そういった楽しみがなければ、退屈な毎日の重労働に耐えることはできなかったであろう。単調な「ケ」の毎日に「ハレ」を取り入れたのだ。

しかし、現代の日本では「ハレ」のありがたみが薄れているように思われる。いや、この場合は「ケ」が消えつつあると言わなければならないか。日本は世界的に見ても富んだ国である。それ故に「ハレ」も「ケ」も大差なくなってしまうているのではないか。世には娯楽があふれ、食事、服装なども昔なら「ハレ」の日にしか目にかかれなようなものも、私たちは毎日目にしている。昔の人の感覚でいえば、今この瞬間も「ハレ」ように思えるだろう。「ハレ」と「ケ」の対比のために作られた祭も、多くは、その本来の意味を失い、ただ、昔からの慣習だから開催されているという感じが強くなりつつある。今じゃ祭はさほど特別な「ハレ」ではないのかもしれない。今の日本人は毎日「ハレ」の日を過ごしているとと言っても過言ではない。凄まじい勢いで「ケ」が減少しているのだ。

これと全く同じ現象が、我が父の頭頂部においても引き起こされている。

日に日に薄れていく「ケ」。そして、いずれは無くなり、「ハレ」々しく輝くその姿はそうそう直視できるものではないだろう。多少の「ケ」は、潤いを持った生活のためにも必要不可欠なのではないだろうか。父の姿を何十年後の自分に重ね合わせると無性に心が痛くなる。「ケ」の無い生活を悩み、「ハゲ」の毎日を過ごしてから、後の祭りとしないうちに、日頃からのケアを大切にしていくとしよう。

周りで仲間たちが次々にさらわれていく

迫りくる波、押し寄せる風

激しい水飛沫をあげて、俺たちはのたうちまわる

いきなり、水面を切って突入してくるそいつは
俺の仲間を

一瞬で あるいは しつこく追いかけて

向こうの世界へ連れて行く

「あたしが、きみたちを救うよ。」と言って

あんなにもたくさんいた仲間たちが、

いつの間にか、こんなにも少なくなってしまった

赤、白、黒

キラキラ輝く、鱗を残して

いつになったら、この鬼ごっこは終わるのだろう

『金魚の浴衣』

ある夏の昼、旧友の宮下と偶然に出くわした。営業仕事の合間にこのファーストフード店に涼みに来たらしい。積もる話があるでもなく、誰それが結婚したとかそういう世間話をしていた時のことだった。

「お、浴衣」

宮下は店内に入ってきた女子高校生と思われる集団を差す。

「ああ、夏祭りでもあるんだろ」

青地に白い蝶の飛んだ浴衣、桃地にバラのプリントされたラメだらけの浴衣。そして、金魚のやや古風な浴衣。

「そっか、夏祭りか」

百円のアップルパイを咀嚼して、面白くないものを見るように眉を顰め、コーヒーを吸る。「どうかしたか、宮下」と、俺が聞くと「ん、ちょっとあの浴衣で思い出してね」と、少し笑って、昔話を始めた。



「確かお前と同じ中学になる前、小四くらいの夏祭りだったかな。あの、山上にある神社での夏祭り。射的だとか林檎飴だとか、とにかく屋台が出ただろ？昔は結構活気づいていたから、ちょっと親とはぐれると必ず迷うんだわ」

予算の都合で、夏祭りはもう廃れきって無くなってしまうけれど、覚えだけなら確かにあった。

「そう、それで俺も例に漏れず迷ったわけ」

それとどこで浴衣に続くのか分からなかったが、饒舌な宮下に相槌を打ちながら話を聞き進めた。

「それで、自分が迷ったって気づいたときにはもう良く分からなくて、泣きそうになりながら……もしかしたら泣きながらかもしれない、とりあえず歩き回ったんだ。」

そしたら、ちよっと人通りの少ない路地に出て……多分、俺は見ただけで「迷子」だって分かるくらい分かりやすい状態だったんだらう。綺麗な金魚の浴衣を着た長くて綺麗な黒髪の人が、迷子なのって聞いてきて、俺の手を引いて行ったんだ」

なんだ、美人のお姉さんに手を握られた少年時代の甘酸っぱい思い出か、と笑ってやると宮下は少し深刻そうな顔をして続ける。

「まあそれでも構わないけれど……その後、その綺麗な人にチョコバナナとかフランクフルトとかを買ってもらいながら着いていくわけなんだが、一向に親は見つからないし、それどころか人の少ない神社に向かうわけ。ほら、祭って神社周辺でやる割に、神社にはあまり人が来なかっただろ？」

そう言われてみれば、出店の方に気を取られて神社には行かなかったような気がする。

「そうそう、それでその人と神社に行ったら丁度メインの花火が始まって」

一緒に見たんだ、階段に並んで座って、手をつないで。と、宮下は懐かしそうに呟いた。



ふと、少し向こうの席でハンバーガーを食べ終えた女子高校生が目に入る。それなりに時間が経過したらしい。

「やっぱり、甘酸っぱい思い出じゃないか」

「いやいや、話は最後まで聞けって」

最後まで聞いて損をした、と憤慨してやると苦笑された。

「結局、探し回った母さんに神社の境内で見つけられてひっぱたかれるんだけど、まあそれは良いとして」

「良いとして？」

「数日後、その金魚の浴衣の人が警察に捕まったんだ」

「え？」

「未成年の連れ回しとか、誘拐監禁とか、わいせつ行為とかって」

「……は？」

俺は思わず素っ頓狂な声を上げてしまった。

「それが、その人、女物の浴衣を着て髪を長く伸ばしていたけれど、実は男だったっていうね」

苦笑してそう言う宮下に、俺は絶句した。

「いやー、俺も危なかったな。親に見つけられなかったらどうなったか」

そう言うと、宮下はアップルパイを包んでいたバックを丁寧に潰し、空になった紙コップを手を持つと、席を立ち「それじゃあ、営業に戻るわ。お前も元気でな、またその内会おう」と快活に消えていった。

しばらくして俺も外に出る。すぐさま、しんわりと湿り気を持った熱風が冷たい肌の上をねっとりとしめ回していった。

ちょっとそこの兄ちゃんやっつかないかい！

ん？射的か…あまりお金使いたくないんだよなあ。

まあそう嫌な顔せず、出血大サービスで一回目はタダだよ！

タダ？なんか怪しいけど、それなら一回やつてみようかな。自信はあるし。

つよそうだねアンタ、怖いなく はい、コレ使いな！

銃もよくある形ものだ。これなら…つて、え？景品が一つしかないぞ。

リラックスして、ほら。でもあんまりイイトコ狙わないでくれよ！

なんなんだこの射的…

あんな大きい人形が一発で落ちるわけがない。しかもなんだか不気味だ。馬鹿らしいけど、タダなんだしやるだけやるか。よし、しっかり狙つて…

ズドン

銃声と共に、胸のあたりが猛烈に熱くなるのを感じた。
赤く染まる地面と、遠のいていく意識。

だから言ったのに、あゝあ

最期に見たのは、弾丸がめり込んだ胸から血を流している人形と
ニヤニヤと笑みを浮かべる店のオヤジの姿だった。

なつまつり

いつもと同じように今日も俺は家でテレビを見ながらのんびり過ごして一日を終えるはずだった。

一通のメールが届いていた。それは、俺の知らないアドレスからだった。そのメールには『今日はお祭りがあります。ぜひきてください。』と書いてあった。そのメールを見て俺は近くで祭りがあったことを思い出した。少々不気味なメールだったので、俺はお祭りに行くか迷ったが、結局行くことにした。

祭りに来たものの、俺は目的もなくうろついていた。不気味なメールの送り主でも見つけようかと思ったが、メールには『きてください』と書かれていただけで、場所が書いてなかった。探しようがなかった。

そうして適当にうろついていると、わたあめを販売している屋台があった。最近、チョコバナナなどに地位を取られたのか、めっきりわたあめを見なくなったので、懐かしく思いわたあめを買うことに決めた。屋台の店員は、小柄な女性の人で、俺がわたあめを注文するとすぐに隣に置いてあったわたあめを作る機械でわたあめを作ってくれた。その女性はにっこりと笑って渡してくれたので、俺はありがとうと言いながらわたあめを受け取った。女性がわたあめを渡してくれたとき、何か言っていたような気もするが、聞き直すのも野暮なので、俺はそのまま立ち去った。

奥の方へ進むと、屋台の数も少なくなり、林が見えてきた。俺は林の入り口で座り込んで休憩することにした。祭りの喧騒から離れ、俺は考えていた。騒々しいことも嫌いで、人付き合ひも悪い俺が、なぜ見知らぬ人からのメールでわざわざ祭りへ来たのか。自分でも分からなかったが、メールを見たとき、祭りへ行くべきだと思ってしまったのだ。

わたあめを食べつつ休んでいると突然大きな音がした。空を見上げると、そこには赤、白、オレンジの閃光が走っていた。体中に音が響く。夜空が煌めく。気づいたら辺りは暗くなり、音も聞こえなくなった。祭りの方もほとんど終了し、片づけをしている最中だった。もう一度わたあめ屋があった場所へ行ったら、そこにはチョコバナナと書かれた屋台があり、片づけをしていた。

聞いた話によると、今回の祭りにわたあめ屋の出店はなく、俺がわたあめを買ったであろう場所には最初からチョコバナナの屋台があったそう。

家に帰ると、一通のメールが届いた。祭りにあることを俺に知らせてくれた人からだった。『お祭りにきてくれてありがとう。わたあめは大きく立派なおかしに見えますが、実は少ししか砂糖を使っていないのです。わたあめのようにあなたも自分に自信をもてば、立派な存在になることでしょう。』

この祭りの後から、俺は自分に自信を持ち始め、人付き合ひも良くなり、友達もたくさん増えて、充実した毎日を送ることとなった。

愛知県での披露宴の後

ネットで県内のお祭りを調べようとした。

「ふたりでたのしめるあいちまつり」で漢字変換したら

「二人で楽しめる相血祭り」になった。

祭囃子が響き渡る神社の鳥居を抜けると、そこはカップルに満たされていた。

今日は一年に一回の秋祭り。町中の男女が仲良くしたりデートしたりする非日常な日である。

「辺りはホント幸せに満ちているのに、あんたは何故一人でこんな所にいるのかしら？」

随分と聞き慣れた声に振り返ると、明るい笑顔が咲いていた。艶やかな橙色の浴衣に身を包み、人々が流れる中で一際眩しく映る、隣の家の幼馴染。

「……そう言うお前は、何でこんな所にいるんだよ？」

「カップルたちを指咥えて眺めているあんたが哀れで憐れで。可哀相なあんたの為に、私が相手をしてあげようかと思った訳ですよ。嬉しいでしょ」

とか言いつつ屋台に向かって走り出す彼女に、俺はそれから振り返られることとなった。

甘い物は苦手なのに林檎飴やら艶甲飴やら食べたり、男子大学生なのに可愛いイラストの袋の綿飴を買わされたり。挙句の果てに魔法少女モノのお面をつけるというから従うと、周囲からは軽蔑を通り越して同情の目を向けられる。そんな俺を見て、彼女は指差して大爆笑。

でも俺の得意な金魚すくいに、すごいすごいと手を打って喜ぶ彼女は可愛かった。

楽しい時はあっという間に過ぎるというから、俺は彼女との時間を楽しんでたのだろう。一休みしようとして神社から少し離れた原っぱに腰を下ろす。周りは暗い闇に沈んで、祭りは終わりに近づいていた。

「それで、お前は本当に何でこんな所にいるんだよ？」

「忘れちゃったの？元々はあんたが一緒にお祭り行こうって誘ったのに」

俺は、愛しい女の子の頭を撫でようと手を伸ばす。けれどもその手は空を掴むばかりで、透けた身体からは遠く灯る神社の提灯が儚げに覗いた。去年、彼女が祭りの前日に車に撥ねられたことを思い出し、俺の全てが押し潰されそうになる。

「全く、あんたがいつまでも約束に縛られて、のこのことお祭りに来るような腰抜けだから、心配で、成仏できやしないじゃない。でも今日は楽しかったわ……ありがとう」

ふと視線を遣ると、光に包まれ、輝く笑顔と共に夜に溶ける彼女が見えた。俺のことを見守るんじゃないのかよと思ったが、こいつが俺にペースを合わせてくれる訳もないかと肩を竦める。

祭りはいつしか終わりを告げ、ただ瞬くばかりの星空が美しいだけだった。屋台を片付け、日常に戻っていく音が聞こえる。やれやれと一つ溜息を零し、帰路につくことにした。

俺は一步、歩き始める。

日本祭り技能検定

第1級

実施日2011年10月18日

大問1 (50点)

祭りの名称を答えよ。

(1) 証言をもとにして答えなさい。ただし本問の正解は正式名称だけでなく別名や通称でも正解とする。

証言群

その1 「この祭りの様子がそのまま別名や通称に使われています。

おそらく祭りの名前をご存じない方がご覧になられても
名前の検討はつくでしょう。」

その2 「みんなもうびちよびちよに濡れちゃって…。」

その3 「はあはあ…

もう心臓バクバク、歳かな。」

その4 「たぶん、ぐつしより濡れてしまえば

どうにでもなれって気分になるのさ。」

その5 「3日間通しでやり続けるため体力的な問題でご年配の方は少ないと思われませんが
若返ったかのように元気になるご年配の方の中にはいますね。」

その6 「…でも…あそこまで…濡れると…何か…最高の気分…」

その7 「要するにベロベロでぐちよぐちよになったりしたりする祭りです。」

(大問1は次ページに続く)

僕に彼女ができたと思ったら、僕を知る十割の人間が驚くだろう。多少誇張 があるか

もしれないが、これはれっきとした事実である。このことを信じるか信じないかは別

として、彼女との馴れ初めを巡るストーリーは大体こんな感じである。【祭1日前】なんだ

か、身の回りががやがやしていると思つたら、明日は近くの公園で祭が行われるようだ。

そういえば1週間 ほど前になんかお祭り のチラシを配っていただ あれだったのだ

ろうか？当日が 暇だったら覗 いてもいいかもしれない

い。【祭1日目】 祭の会 場 であ いい女の子

を発見。正直だ メ元 で コンタクトを取

ろうと努力して みる。 実際公 園 を探してみるとあの

女の子の姿を目 に するこ とは できた。話しかけなかつ

たのかいつて？ そ んな度 胸が僕にあるはずないじゃない

か。結局そ れ以上の 進展も なく1日目は終わった。【祭2日

目】さあ今日 こそは話しかけて みるぞ と意気込ん

でみる。一昨日 までの 祭に参 加するつも

りじゃなかった の にどう したと言われ そうだが、

仕方ないだろ う。 それが 恋つてもんな んだから。

と言つたも の のやっ ぱり 遠くから見ているだけ

に終始。朝 の決 心な ど 全くの無意味だつ

たのだ。しか し、 運 命の 女神様という

ものはなかなか粹な 計ら いをして くるものらし

い。もう諦めかけていた ころ、彼 女に話しかける機会 が訪れたのだ。

可愛く笑いながら答えてく れた君のことが僕は大好きなんだ【祭7日後】昨日以来彼女

に会っていない。やっぱり僕には不相応な子だったのだろう。今度こそ本当に3次元の彼

女を作れるように、今日から話し方のレッスンを再開することを決意した終末だった。〈終〉

コンテスト結果

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
01	無題（ゆうやみを）	4 pt	6 位	0 sp
		きれいな表紙入ります。 やわらかなあかりに照らされた和の情景がよいですね～。 三尺の帯って、ちょっとむずかしかったけど、まあ雰囲気浮かべば良いかな、と。 イチオシフレーズ：「うがちて」		
02	「ハレ」と「ケ」	12 pt	2 位	0 sp
		正統派と見せかけて……はい、正統派です。 でもラストでハメをはずしました。 そのコワレ加減が、かたつくるしいだけでない着地になって、いい工夫。評価もシルバー・メダルまで上がりました。おめでとう!! でも、カッコいいハゲさんって、世の中にたくさんいらっしゃると思うけどなあ。 イチオシフレーズ：「これと全く同じ現象が……」		
03	夏祭りの鬼ごっこ	13 pt	1 位	0 sp
		びっくりです。視点を変えると、金魚すくいがこんなにダイナミックで恐ろしいものになるなんて！ 救う→掬うのフレーズも決まって、あざやかな言葉の魔術を夜店の灯りのなか、堪能させていただきました。金魚だけにゴールド・メダルは譲れない。おめでとう!!! イチオシフレーズ：「いつになったら、この鬼ごっこは終わるのだろう」「あたしが、きみたちを救うよ。」		
04	金魚の浴衣	3 pt	8 位	0 sp
		思い出をふわっと蘇らせる金魚模様の浴衣。夏らしい季節感でいねいにまとめて、情感ゆたかです。 宮下のキャラが色白ナヨ男だったり、2人の花火シーンがもっと色っぽかったりすると、ちゃんと伏線になってもっとアヤしさが醸し出せたのでは。		
05	「まつり」	5 pt	4 位	1 sp
		そんなダークな後のまつり。 シュールですね。会話で展開したのが、軽快で良いテンポになってます。 でも、このおじさんは、けっきょく何をしたかったのか?? 特別賞：やりすぎで賞 fromA班（そのまま） イチオシフレーズ：「まつり」		
06	なつまつり	4 pt	6 位	1 sp
		人生の転機はなんとわたあめから！ 幽霊さんからのメールをきっかけに心構えが変わっていくようすが、無理なく緻密に組み立てられて共感を誘います。 わたあめ屋さんのキャラが、もう少し濃いと良かった		

		か。でも薄いから、わたあめなのかも。 特別賞：進研ゼミ賞 from C班（進研ゼミ落ち）
07	無題（あいちまつり）	5 pt4 位1 sp 一発ネタ！ 余白の大きさがどうにもバランス悪い感があります。 ここに、このあと二人でどこへ行ったのかなんて話があると、まとまったのでは。 実話だったそうな、なるほど。 特別賞：真中に合わせま賞 from G班（右だから） イチオシフレーズ：「相血祭り」× 2
08	約束の向こう側	11 pt3 位0 sp いきなり仰天「カップルに満たされていた」、な、な、なんだってー!? その衝撃に、これはてっきり幸せオノロケ話かと思いきや、途中から、あれれっ幽霊さんなの、と悲しい展開へ。 女神様の手の内で踊る読者たちに合掌。3強の一角を制してブロンズ・メダルでした。おめでとう！ イチオシフレーズ：「俺は一步、歩き始める」
09	日本祭り技能検定	3 pt8 位3 sp 設問形式というのは、なかなか目を引く設定です。おかげで、あちこちの班で、いっしょけんめい回答探し。 三択で例示するなど、何らかのヒントや答えがほしかったなあ。 特別賞：壁サークル目指しま賞 from てつくちゃんのB班（何かオレ達の心にひびくものがあつたので）何のまつりで賞？ from D班（ヨーロッパのどっかのトマト投げくらいしか思いつきません）下ネタ賞 from H班（下ネタだから）
10	無題（彼女ができた）	0 pt10 位4 sp 読みにくっ！ どんな狙いだったのでしょうか。「でかあいい女の子」にTAさんウケてましたけど。 祭のようにあっという間に終わった恋。これを以て「彼女ができた」と表現してよいものか？ 謎を残す今週の裏表紙でした。最下位だけど最多特別賞、という位置取りでしたね。 すてきな「終末」をどうぞ。 特別賞：短くしま賞 from E班（君ならまだ出来るはずだ→作者予想はずれ）レイアウト賞 from F班 I班 J班（理由はみんな同じ） イチオシフレーズ：「のう。」「決意した終末だった。」